

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・利用定員を遵守している。	
	2 職員の配置数は適切である	○		・基準に合った配置になっている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・教室内は、視覚支援などによりバリアフリー化されている。	2階のテナントであるため、駐車場から玄関まで階段を上らなければならない。「保護者と手をつないで上り下りをする」を児童と約束したり、見送りの際は下りる様子を見守ったりして安全に配慮していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・毎日、掃除や消毒、換気を欠かさず行っている。 ・活動内容に合わせてスペースを確保している。	教室外の音が聞こえやすいので、今後は壁で隔たれた別室にモニターを設置し、保護者にはそこで児童の様子を見てもらうようにする。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・毎日朝礼、終礼、勉強会を行っている。その中で日々問題点を挙げて、解決策を話し合っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・アンケートを実施し、全職員がその結果を確認することができて業務改善に繋がっている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページで毎回公表している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は未実施だが前向きに検討したい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・毎日の各教室での勉強会や全体会議での勉強会を実施している。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・児発管が適切な手順で作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		・事業所として使用してはいるが、契約時に病院などで行った結果を参考にさせていただいている。 ・公認心理師もいるため、今後は当事業所でのWSICなどのツールの使用も検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・5領域を網羅した支援内容を行っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・支援計画を職員全員が共有し、支援している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・教室内の職員全員で意見を出し合って立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・プログラムに関する振り返りも複数の職員で行い、改善に繋げている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・集団活動を基本としているが、必要に応じて個別支援計画を参照して個別の課題を設けている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・朝礼時に当日の療育内容を全職員で共有して確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・終礼を行いその日に合ったことを共有して業務に繋がっている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・bridge（連絡アプリ）への記入や朝礼・終礼時に記録している。今後は、より客観的で正確な記載を心がけたい。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・最低限、6か月に一度は児発管がモニタリングを行い、その後全職員と話し合っている。		

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・教室長や児発管が「ふさわしい者」として参加している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		・今後要請があれば連絡会等に参加する予定。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象児童なし	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象児童なし	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・主に児発管が情報共有して教室に持ち帰り、職員間で共通理解を図っている。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・主に児発管が情報共有して教室に持ち帰り、職員間で共通理解を図っている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		・現状では要請を受けておらず、参加等はしていないが、今後必要に応じて連携していく。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		・コロナの影響等で実現できていないが、今後積極的に働きかけていきたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・代表者が参加している。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・保護者による送迎時にその場で伝えることができている。 ・bridgeを活用して療育終了後に保護者に伝えている。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・2/18に放課後等デイサービスの教室と合同でペアトレを実施した。		

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・主に児発管が契約時に説明している。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・主に児発管が、表に沿って丁寧に説明している。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・定期的な面談を行って支援している。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・保護者会の開催はできていないが、ウォークラリー、運動会、ベアトレ等を企画、運営し、保護者の参加を募っている。	
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・bridgeの活用でいつでも保護者からの相談などを受け入れられる体制ができています。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月の予定表や新聞を発行して活動内容や行事予定のお知らせをしている。 ・新聞は半年に一回発行している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報に関する資料は鍵付きのキャビネットに保管している。	
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・視覚支援などで意思疎通を図っている。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		開かれた運営を図るために、利用者の友達を誘ったり外部の方を招待してりしたが、なかなか実現できていない。今後も積極的に声掛けを続ける。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・定期的(年3回)に訓練している。 ・勉強会で各マニュアルを読み合わせしている。 ・契約時に配布している。	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・ガイドラインに沿って定期的に各災害に対する訓練を行っている。	・避難訓練を行った際は、写真を使って保護者へも情報共有を行って、災害時の対応について明確な共通理解を図る。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・保護者から状況を確認して対応している。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・食事提供なし。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリハットは発生していない。 ・療育中気になったことがあれば、その都度共有している。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・全体会議や研修会にて虐待防止について確認している。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・該当児童はいないが、各児童について職員間で共通理解し、支援計画に沿って適切な対応を確認している。	